



著者はICT教材クリエイターとして、子どもの能力を最大限に引き出す教材を開発し、インドをはじめとして

世界中の教育現場を訪れている。本書は、日本の子ども達が世界の子ども達に負けないで生きていくために、また、AI時代を生き抜くために必要だと思われる「自己肯定感」「読解力」「数学的思考力」「表現力」を育成するためのノウハウが語られている。

「自己肯定感」については、できないことを指摘するのではなく、できていることをほめてあげることが大切であり、自分の存在を認めることができる子どもは、他人の存在もまた、価値あるものとして認めることができるようになる」と示唆している。

「読解力」については、書かれた文章を読み解くだけでなく、人間のどこをを読み取る力をつける

玉井 謙代 著
1628円 青春出版社
03-3203-5121



世界に出てても負けない子に育てる
ビジネス、スポーツ、人生で
求められる4つの力の伸ばし方

ることが必要であり、幼児期からの家庭内の会話や絵本の読み聞かせ、好きな本の多読、文字脳を育てること」を勧めている。

「数学的思考力」では、世界のSTEAM教育(科学・技術・工学・芸術・数学)から、これからの時代は理系・文系に関係なく、数学的思考力が必要である」と主張している。そして、

実生活を通して、量の感覚や論理的思考力を育成すること、また、著者の開発教材である、物語を読み解いて問題の意味を考え、算数の問題を解きながら同時に国語の読解力や表現力を高める「国語的算数教室」と、空間認識能力を育む「図形の極」を紹介している。

「表現力」では、日本人のプレゼンの能力や批判的思考が足りないことを指摘し、プレゼンの機会や「なぜ? 本当に正しいのだろうか?」といった問いや仮説を立て、検証し、本質を見極める力を養うことが重要であると論じている。

(愛知教育大学教授・高橋美由紀)